

表紙・裏表紙の写真の説明

表紙タイトル：タカネナデシコ

撮影データ：オリンパス E-300/ズイコーデジタル ED 50mm F2.0マクロ/絞り優先
オート/記録画素数 3264×2448/ISO200/ホワイトバランス：オート/
JPEG

撮 影 地：八島湿原（霧ヶ峰高原・長野県）

撮 影 日：2005年8月14日

裏表紙タイトル：ツリガネニンジン

撮影データ：オリンパス E-300/ズイコーデジタル ED 50mm F2.0マクロ/絞り優先
オート/記録画素数 3264×2448/ISO200/ホワイトバランス：太陽光/
JPEG

撮 影 地：八島湿原（霧ヶ峰高原・長野県）

撮 影 日：2005年8月15日

コ メ ント：マクロレンズの醍醐味

最近では、ズームレンズでないカメラを探すことすら難しくなったように思われる。ズームレンズは何本ものレンズに相当する焦点距離を連続的に得られるため、あたかも万能レンズであるかのような印象があるが、変えることのできるのには根本的には画角である。一方、マクロレンズは、通常のレンズよりも撮影倍率を大きく変えることができ、遠くは無限遠から近くは手のひらよりも小さいものを画面いっぱいにするまでが容易であり、状況によってはマクロレンズの方がむしろ万能のように感じられる。被写体を強調する上で、主たる部分をシャープに表現する一方で、従たる部分をピントの外れた状態（いわゆるボケ）とする手法がよく使われるが、立体感のある表現をするためには、ピントが外れていながらもそこに何があるかを、ゆるやかに描写する必要がある。最近のズームレンズは性能の向上が著しいが、マクロレンズは数値的にも極めて高い性能を有していながら、ピントの外れた部分の情緒的な描写も考慮されていることが多く、これが映像表現に大きな影響を与える。写真に行き詰ったら、マクロレンズの世界に飛び込んでみることをお勧めしたい。

使用機材

ボ デ ィ：オリンパス E-300

レ ン ズ：ズイコーデジタル ED 50mm F2.0マクロ、ズイコーデジタル14-45mm
F3.5-5.6、ズイコーデジタル14-54mm F2.8-3.5、ズイコーデジタル40-
150mm F3.5-4.5

撮 影 者：林 孝文